

このたびの東日本大震災により被災された地域の皆様、関係の皆様、心よりお見舞い申し上げます。

Topics

- 4月1日付で株式会社ビルディング・パフォーマンス・コンサルティングを吸収合併いたしました。同社の事業は引き続き弊社で遂行いたします。
- 4月20日に開催する第40回NSRI都市・環境フォーラムは、北山孝雄氏(プロデューサー、北山創造研究所 代表)によるご講演「時代は激変」です。詳細は <http://www.1k.mesh.ne.jp/toshikei/>まで。

さらなる安全・安心な都市づくりに向けて

2011年3月11日に東日本を襲った東日本大震災は、自分にとって価値観が大きく転換させられる契機となった。自分はその瞬間飲食ビルの2階で遅い昼食をとっていたが、初期の緩い揺れから本格的な揺れに変わり、思わず机の下に身体をかがめた。天井から吊るされたランプは落ちて割れ、窓の外には周辺の建物が波打つ姿が見えた。以前、地震体験装置で強震度の経験をしたことはあったが、まさかそれが実際のものになるとは思いもしなかった。その夜はオフィスに泊まり、物品がすっかり少なくなったコンビニエンスストアで人の列に並んだ。

確かに今まで信じてきたことがひっくり返された瞬間だったが、その一方で改めて日本の強みを再認識できた点もあった。建築・都市の計画に携わる者として、この場を借りて今思うことを書いてみたい。なお、この稿はあくまで筆者個人の見解に基づいていることをご容赦願いたい。

再認識できた点：守られたコミュニティ

海外メディアからも賞賛されているが、この未曾有の大危機に対する日本人の沈着冷静さ、そしてそれに基づく秩序維持は、都市におけるコミュニティ維持に十分に貢献したと考える。例えば建物・インフラが分断されても、個々の「支えあい」の精神により、国民一人ひとりのレベルにおいてコミュニティが守られたということ、我々は誇ってもよいのではないだろうか。

課題：想定外かつ複合的な災害への対応

今回の震災による災害の特徴のひとつとして、地震に加えて津波、原発被害、それに伴う計画停電、さらには最近の風評被害等含めて、従来の想定外かつ複合的に災害が起きていることがあげられる。

これらは基本的に個々に対応していくしかないと思われるが、我々が現在行っている災害対策は、歴史的に様々な災害への対策を積み上げてきた結果であるともいえる。関東大震災では地震に伴う「火災」があり、その後建物の不燃化が進んだ。阪神・淡路大震災では大都市直下型の「強振動」があり、その後耐震補強が進んだ。新潟県中越地震では「地盤災害」が想定外の災害であった。今回の災害に対しても新たな対策を積み上げることになるだろう。

様々な主体が都市の運営に携わっている現在、本震災の対応に際しては、個々の自治体や事業者のレベルを超えた、より包括的な対策が必要と考える。

課題：災害に強いエネルギー・インフラ構築

震災後の電力不足やガソリンのエネルギー供給網の分断などは、直接の被災地だけでなく、首都圏を含む広範囲に影響を与えた。エネルギー源の分散化や供給手段の多様化など、災害に強いエネルギー・インフラの実現に向けての取り組みは不可欠と考えられる。

提案：災害対策先進国として「日本の力」を見せる

近年、海外特にアジアや中東等の新興国に対して、日本の環境技術をパッケージ化した都市計画・開発を売り込もうという動きが見られる。サステイナブル、自立可能な都市をコンセプトとして、建築・交通・エネルギー等の様々な分野において日本企業の最先端技術が展開するというものである。先方のお国柄もあってかあまり災害対策は重視されないこともあるが、まさしくこのような先端技術のパッケージ化によるオール・ジャパンの災害復興都市づくりを、自国に対して行うべきではないだろうか。

ニュージーランドでの地震やスマトラでの津波など、同様の災害に苦しむ国は多い。それらの世界の被災地に対して我が国は、「災害対策先進国」としてもうひとつ上のレベルの「安全・安心」の都市像を提示すべきと考える。

最後になりますが、今回の震災で被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

参考文献：災害復興ガイド 日本と世界の経験に学ぶ / 兵庫県震災復興研究センター他 / 2007年1月

筆者の紹介

吉田 雄史 (よしだ ゆうし)

主任研究員

主要研究分野は、都市計画・開発のコンサルティング。近年は国内に加え、中国・中東での案件にも携わる。共働きの妻と一児との間でワークライフバランスの理想と現実の狭間で苦悩する毎日。



編集後記 安全対策に“万全”や“十分”という言葉は存在しないのだと思われ知されました。安全のための代替手段の確保が今後重要な取り組みとなりそうです。(ちゃっぴーとちゃたろう) 定期配信希望は、webmaster_ri@nikken.co.jpへ

